

住みよさ指標に関する提言

河内長野市行財政評価委員会
委員長 中川 幾郎

河内長野市行財政評価委員会で毎年度実施している河内長野市第5次総合計画・各38施策の評価では、とりわけ、住みよさ指標に関する意見があがっています。

これらの意見は、各施策に全般的に当てはまると思われる内容も多々あったため、下記のとおり、「住みよさ指標に関する提言」としてまとめました。

今後、後期基本計画を策定するにあたり、以下の観点から指標の見直しを検討し、必要に応じ、修正を行うよう提言します。

①市民満足度の指標について

市民満足度を各施策の指標に設定しているが、以下の理由から、施策目標の達成度を測るための指標として適切であるか疑問であり、見直すべきである。

- ・満足度は、世相など、市単独の努力でコントロールすることができない外的要因の影響を大きく受けるものである
- ・満足度という用語がそぐわない施策もあり、定型として満足度という用語を使うべきではない。
- ・満足度の前に、施策が市民にどれだけ認知されているのかわからない。
- ・国、府、市の役割を理解したうえで、市民が市の施策を評価しているのか疑問である。

②外部要因の影響が大きい指標について

外部要因による影響が大きく、市単独の努力で数値を動かすことが難しい指標については、施策目標の達成度を測るための指標として適切であるか疑問であり、見直すべきである。

- | | |
|-----|---------------------------|
| (例) | ・「生活保護の稼働世帯の割合」(施策 No. 9) |
| | ・「合計特殊出生率」(施策 No. 12) |

③アウトプット指標（活動指標）の設定について

施策によっては、設定されている指標がアウトカム指標（成果指標）に偏っている場合がある。経年課題に対して、PDCAをまわし、改善に取り組んでいる内容を確認するためにも、施策目標達成に向けた取り組みの中間指標として、支援策などのアウトプット指標（活動指標）も追加するよう検討すべきである。

- | | |
|-----|-------------------|
| (例) | ・施策 No. 31 商工業の振興 |
| | ・施策 No. 32 農林業の振興 |

④目標値の設定について

既に中間目標値を達成している指標については、目標値のハードルが低く設定されている場合も考えられ、上方修正するなど見直しの検討が必要である。一方、目標値と実績値が大きく乖離している指標については、原因分析し対策をとることが必要であるが、社会状況の変化などにより実態と合わなくなっている指標については、目標値の下方修正なども検討すべきである。

⑤住民自治の推進と指標の設定について

すべての施策において、行政が担う分野と住民自治が担う分野とが存在するはずである。施策を正確に評価するうえでは、団体自治と住民自治の役割分担を明確化したうえで、それぞれの成果を測る指標が設定されているべきである。住民自治の活性化に向けた施策の展開を図るとともに、住民自治の成果を測る指標の設定を検討すべきである。